

[002]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7357536>

出版情報：ポリモルフィア. 2, 2017-03-31. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

2016年度 企画広報環境整備部門活動報告

伊藤裕之

九州大学男女共同参画推進室 企画広報環境整備部門長
大学院芸術工学研究院 教授

企画広報環境整備部門では、企画広報と子育て支援などの環境整備を担当しており、担当領域が広範にわたるため、部門内でWorking Group（作業部会、以下WG）を構成し、課題解決を図っている。2015年度より5WG（広報WG、講演会・FDWG、報告書（新広報誌）WG、育児WG、保育園WG）で活動をおこなっていたが、2016年より①企画広報WG、②育児・保育WG、③広報誌ポリモルフィア編集委員会の3つにまとめた。

1. 企画広報WGの活動

2015年度に、九州大学が男女共同参画やジェンダーに関連する知見を発信し、この分野でイニシアティブを発揮していくため、会議録等を収録していた活動報告書を紀要型の広報誌に転換することを決め、2016年3月にポリモルフィア創刊号を公刊した。この広報誌については、WGとは独立した編集委員会を設け、掲載記事の検討、簡易査読等を担った。ニュースレターについては、企画広報WGが担当し、前年度に引き続き冒頭の特集で部局長インタビューを理学研究院長に実施した他、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)の紹介と男女共同参画推進室の

活動などを記事として取り上げた。

また、広報媒体についてデザインの統一を図るため、2015年度から芸術工学研究院の教員に広報アドバイザーを依頼し効果的なデザインの作成に着手してきた。ホームページのトップページに掲載されている写真を差し替え、公刊された広報誌ポリモルフィアおよび出産・育児および介護に関するハンドブックも統一されたデザインとなったが、2016年度は、これらの冊子等を学内外に配布した。また、ニュースレターのデザインも2017年3月発行の第16号より改訂されることが決まっている。

学内の教職員に対するワークライフ・バランスに関わる意識啓発についても、部局単位のファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）およびスタッフ・ディベロップメント（以下、SD）を実施した。男女共同参画推進室専任教員によるFDは、合同開催も含めて11部局に対して4回実施し、SDはワーク・ライフ・バランス啓発活動を行う法人から講師を招聘して合同開催として1回実施した。年度内の実施予定として、2017年2月にFDを1回開催予定である。

2. 環境整備WGの活動

子育て支援については、従来、病児保育や休日保育の必要性について議論してきたが、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の補助金によって育児シッター利用支援が開始され、ニーズへの対応がなされることになった。また全国展開している育児シッター派遣を行う会社と契約し、小さい子どもがいても学会出張先での育児シッター利用が可能となった。2016年末時点で、利用登録者は計13名、その内4名が複数回の利用実績がある。また、2017年1月の大学入試センター試験時に従事する教職員に向けて伊都キャンパスで一時保育を実施した。さらに出産・子育て、介護に関わるハンドブック『出産・育児をむかえるときのハンドブック』『介護が身近になるときのハンドブック』を発行し、学内の教職員、大学院生に配布した。学内保育施設については、2015年度末のたんぼば保育室の廃止に伴い、病院地区のひまわり保育園を増築し、2016年度4月より定員を増やした。2015年度本学に在籍する研究者を対象に実施したWEB調査「研究者を対象としたワークライフ・バランス支援に向けての調査」の結果は、2016年に概要をまとめ同年9月に男女共同参画推進委員会にて報告を行い、2017年3月末に集計内容をまとめたものを報告書として発行予定である。今後は、研究者のワークライフ・バランス支援のニーズをより明確に把握し、2017度の支援の充実に反映させる予定である。

課題として、出産・育児によるキャリアの断絶の防止およびキャリア継続の支援については、大学院生および学内保育施設のないキャンパスの研

究者に対する有効な対策について引き続き検討していく予定である。また、在宅勤務を可能とする環境整備に向けて、専任教員が複数の他機関へヒアリングを実施し、その結果を基に今後WGで実施可能性を検討予定である。

3. 広報誌『ポリモルフィア』の編集

2016年3月に公刊された『ポリモルフィア』創刊号は、学内の執行部、部局長、採択機関の女性研究者支援部門、県内の男女共同参画関連のセンターおよび図書館、高校等に配布した。2016年度からは誌面の充実を一層図るため、投稿の募集を開始した。その結果、2016年10月までに論文2編、寄稿2編の提出があり、その内、論文は学内の教員に査読を依頼し、1編が採択された。依頼・寄稿論文は編集委員で簡易査読を行っている。より質の高い原稿の掲載の課題として、査読者の選定方法、投稿原稿の募集時期と査読プロセスの確認、依頼論文の執筆者の選定等が挙げられる。

その他、2017年3月公刊予定の第2号では、2016年3月に実施されたシンポジウム「多様性の推進と性差に着目した科学技術革新」を特集記事とし、ダイバーシティ推進トップセミナー、第1回WWAS国際会議の内容なども掲載されることが決まっている。

4. その他

本学教員の異分野間の交流を促す企画として、2016年7月に「若手研究者・異分野交流会」を実施した。参加した教員による研究発表と懇親会

が開催され、第2回の実施も企画中である。一方、男女共同参画推進室が学外の高校、企業、男女共同参画関連団体等との繋がりを形成する中で、キャリア形成支援を推進するイベントについてWGで検討を重ねていたが、招聘を予定していた登壇者との交渉、予算などのいくつかの障害があり、2016年度は実施を見送った。

2016年度 学生教育等部門活動報告

野々村淑子

九州大学男女共同参画推進室 学生教育等部門長
大学院人間環境学研究院 教授

学生教育等部門における主な活動と今後の課題

1. 「ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム」

2010年度から始まった本プログラムは、2016年度も継続して実施され、7年目を迎えた。6月から8月まで学内掲示および九大ホームページにて募集を行った結果、修士課程、博士課程に在籍する計16名の学生から応募があった。提出された研究計画を学生教育等部門員全員で審査し、全員が採択された。採択された学生の所属は、人間環境学府が7名、地球社会統合科学府が4名、人文科学府が3名、歯学府、芸術工学府がそれぞれ1名である。2017年2月21日に、研究助成を受けた学生による報告会を開催し、その後報告書を発行する予定である。

2015年8月から審査項目の検討を続けていたが、2016年度には、審査要項を作成し、以下の4項目について明記した。1. 募集要項に記されている「ジェンダー研究」に沿った内容である。2. 研究方法と実施計画について、具体的に記述されている。3. 研究の特色・独創的な点について、

アピールできている。4. 助成金の用途に関する計画が適切であり、書類が丁寧に作成されている。以上の項目に沿って、学生教育等部門の教員全員で5段階評価の審査を実施し、応募者にコメントを還元した。また、今後の課題として、計画書の審査方法、複数回にわたって応募をする学生への対応、英文での研究計画の審査、上記の審査基準に沿った採択基準などを検討することなどが挙げられる。多岐にわたる興味深い研究計画が提出されているが、応募者への教育的な意義から審査員から厳しいコメントも出された。

2. 学内外への情報発信

中等教育機関への情報発信については、7月に福岡女学院高等学校に於いて実施された「はないち凧プロジェクト」で本学女性教員2名が研究紹介を行った。また、福岡市が実施する「中学生のためのキャリアデザイン啓発事業」に当室の女性教員4名を福岡市内の公立中学校に派遣し、キャリア講演を行った。8月には、箱崎キャンパスに於いてオープンキャンパス企画「将来の夢に向かって！～キャリアデザインってどんなこと？」を出展した。現役生の協力もあり、高校生、保護

者をはじめ来場者数は約80名となった。

2016年10月に伊都キャンパスで開催されたアカデミックフェスティバルでは、「Open Café2016～九大女子卒業生に聞く！ワーク・ライフ・バランス講演」を出展した。今年度は、女性リーダーとワーク・ライフ・バランスをテーマに、社会で活躍中の九州大学卒業生（OG）から、ファイザー株式会社クリニカルリサーチ統括部 廣橋朋子氏、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）有人宇宙技術センター 岩田直子氏、KYT鹿児島読売テレビ報道局報道部 山下香織氏の3名にご講演いただき、現役生、高校生、一般の約40名の来場があった。さらに、外国出身の女性研究者ロールモデル集作成に着手し、教員および博士後期課程の学生、ポスドク等14名に自身の研究紹介やキャリアに関する展望等についてエッセイを執筆いただいた。この冊子は、2017年3月末に発行予定である。

今後の活動については、引き続き高等学校との連携方法について検討が必要であり、イベントを実施する際の集客方法についても課題が残った。

3. ジェンダー関連授業の開講

地球社会統合科学府の大学院生対象講義「ジェンダーとセクシュアリティ」は2015年度休講としたが、2016年度に再開した。また、主に学部下級生を対象として開講している「キャリアデザイン」に関する講義は、2015年度に引き続き2016年度も通年で実施した。

4. 大学院生を対象とする啓発・研究活動支援

理化学研究所客員主管研究員の小野義正氏に講師を依頼して、2016年6月に「若手研究者向け英語論文執筆集中講座」、10月には「科学英語論文プレゼンテーション集中講座～ポイントで学ぶ英語口頭発表の心得」、2017年1月に「英語論文執筆集中講座（中級～上級）」を開催した。小野義正先生の講義は、参加者から大変好評であり、2017年3月には、6月に開催されたセミナーとほぼ同じ内容の集中講座を伊都キャンパスでも開催予定である。

5. 大学院生を対象としたWEB調査の実施

2015年度に大学院生を対象としたWEB調査を実施し、概要をまとめた。経済的な負担への心配や社会に直結した場で研究を行いたいという学生の希望により、博士課程の進学について躊躇する学生がいることなどが把握できた。また、博士課程在籍者の半数以上は男女ともに研究環境、家族の理解、結婚・出産との両立について不安を持っていることも明らかになった。大学院生の相談窓口を設ける、大学院生向けのイベントに企業や大学で活躍している博士課程修了者をロールモデルとして招聘するなどの対応が課題として挙げられる。この調査結果の概略は2017年3月末に報告書として発行予定である。

2016年度 女性研究者支援部門活動報告

杉山由恵

九州大学男女共同参画推進室 女性研究者支援部門長
大学院数理学研究院 教授

女性研究者支援部門では2016年度に以下の取組を実施した。

1. 女性教員の業績評価

2015年3月3日付けの「出産・育児期等に係る期間の教育・研究業績評価について」に基づき、取り纏め文書を作成した。同文書について、部局を対象に実施した男女共同参画に関するFD（対象13部局）で内容紹介を行った。

2. 多忙な女性研究者の研究時間の確保

研究活動基礎支援専門委員会において「出産・育児や介護などのライフイベント、あるいは社会貢献によって多忙な女性研究者」を対象とした研究補助者雇用の経費支援を行っている。女性研究者支援部門では、同審査に協力している。

九州大学着任後に出産した女性教員（教授または准教授）を対象とした研究補助者雇用経費支援は、本部門で制度導入時に検討し、2014年に開始された。現在までに3人の女性准教授が支援を受けている。

3. 女性教員上位職の登用、職階別比率の改善

タイ王国において外務大臣等の経験者である Prof. Dr. Krasae Chanawongse（グラッセー・シャナウォン博士）を招聘し、2016年12月16日に「ダイバーシティ推進トップセミナー」を開催した。同セミナーでは「社会の変革期における多様な人材の活用」について御講演を頂いた。

また、「学生・職階別女性比率を考慮した部局の総合的評価指標」について検討を行った。過去の「各部局中間評価」の試行例を参考に、2016年度に実施された各部局事後評価データに基づきながら、検討課題・問題点が分かり易く伝わるグラフ作成を試行している。

4. 女性研究者エンカレッジメントセミナー

学内外で活躍する女性研究者を講師に開催している「女性研究者エンカレッジセミナー」は第4回を2017年2月2日に開催した。本学工学研究院の三浦佳子教授を講師としてお迎えし、「新天地でラボを立ち上げる ―ラボの運営はここがポイント―」のタイトルで御講演を頂いた。御講演後に参加者による意見交換を行った。

流が行われた。

5. 女性研究者研究力向上セミナー

学生等教育部門と協力し、英語のプレゼンテーション（2016年10月）・論文執筆（2016年6月、2017年1月）に係るスキル向上のセミナーを開催した。3月も論文執筆セミナーを開催予定である。

6. 女性研究者交流ランチ会

2016年7月よりテーマ設定型ランチ会を開催している。同ランチ会は、2016年度の新規企画である。開催日は原則として奇数月の第1木曜日である。テーマ例は「出産・育児をむかえるときのハンドブック」・「キャリアアップ」・「産休・育児のアレコレ」などである。

また、女性研究者ランチ会（各キャンパス持ち回り型）を2017年2月に大橋地区で開催予定である。前年度は2016年1月は筑紫キャンパスで開催し、同ランチ会では、学位記への旧姓併記問題などを含む、実りある意見交換が展開された。

7. 女性研究者研究活動交流会

女性研究者間の研究活動ネットワーク形成のための取組みとして、女性研究者ネットワークワーキングワークショップを沖縄科学技術大学院大学（OIST）と開催することとした。2016年3月には本学の女性研究者8名がOISTを訪問し、2016年11月末にはOISTから5名の研究者が本学（伊都キャンパス）を訪問した。同ワークショップでは、研究発表・討論・ラボ見学など活発な研究交

8. 出産からの復帰者支援

ダイバーシティ研究活動実現イニシアティブ事業（2015年度採択）の活動として、女性研究者の研究力向上の支援の一環とした「出産を経て、研究の現場へ復帰した女性研究者」支援を試行した。同支援は、女性研究者支援部門から制度設計提案のもと、研究活動基礎支援制度の一環として実施され、2016年度には12人の女性研究者が同支援を受けている。

9. 女性研究者ための基金の創設

九州大学卒業生からの「女性研究者・女子学生支援のために寄付をしたい」との要望に応え、九州大学基金の用途特定プロジェクトとして、「九州大学女性研究者活躍促進プロジェクト」の設置が承認された（2016年12月）。今後、同基金を財源とし、女性研究者・女子学生を顕彰する賞の創設などを行う予定である。

10. その他の女性研究者支援

研究補助者雇用経費支援（旧Hand in Hand）や、国際学会派遣支援・論文校閲経費支援は、研究活動基礎支援制度の中で継続されている（詳細は上述参照）。また、2009年度以降、女性教員増加に大きく寄与した「女性枠設定による教員採用・養成システム」は文部科学省の事業評価でも最高のS評価を受けたが、2014年からは「第2期女性枠設定による教員採用・養成システム」として

2018年まで継続実施中である。これらの窓口は、
全て事務局研究推進部学術研究推進課となっている。